

読者ひろば

Readers' square

砲弾型記念品 丁寧な調査を

高谷和生⁶²

市民団体代表

(玉名市)

昨年来、全国の神社等で奉納砲弾が話題となり、県内でも宇城市・菊池市の計4カ所で確認されたという。これまでの調査で、県内の神社奉納戦時資料は、報道された

「砲弾」型をはじめ、津森神社の10式戦闘機本体、竈門神社の木製プロペラ・砲弾ほか、渡阿蘇神社の機雷等と多岐にわたる。

同様に志垣尋常小学校の木製プロペラ・魚雷の

ように「教育参考品」としても、地域の諸学校に多数寄贈されていた。これらは軍国主義化し戦意高揚を図る中で、国家神道の要としての神社や、皇民化教育の核としての学校の役割があったのだらう。

神社奉納「砲弾型記念品」は、大分県ではすでに130例が確認されている。これら大多数は、軍からの譲渡段階で火薬等は抜き取られたか、一部には弾底部保存のため信管が付いていても、運搬のため信管内の点火火薬は除かれていたであらう。いわゆる太平洋戦争期の旧軍遺棄砲弾や米軍

空襲爆弾の「不発弾」とは、性格が大きく異なる。安全が懸念される奉納砲弾は自衛隊での安全確認が必要だが、多くは奉納由来を調べ「砲弾型記念品」として対処してよいのではなからうか。2005年、鹿児島県鹿屋市防空壕内での中学生死亡事故を受け、一部の自治体では歴史的調査なしで旧軍関係「特殊地下壕」の埋め戻しが行われた。

砲弾型記念品を「危険かも」と一律に処分することなく、金属供出から逃れた歴史を知るためにも、今回の報道を機として丁寧な調査が必要なのではないだろうか。

投稿される方へ

「読者ひろば」への一般投稿、若者コーナーは450字程度、主張・提言は600字程度。◇欄外に郵便番号、住所(アパート・マンション名も)、氏名、年齢、職業(無職の方は元職でも可)、電話番号を明記する◇趣旨を変えず文章を直すこともあります◇原稿は返却しません。二重投稿、採否の理由等の問い合わせはお断りします。匿名は不採用です。掲載分には薄謝を送ります。

◇モノクロ作品募集 「私の一字」=好きな文字一字を書き、その理由も。「モノクロギャラリー」=イラスト、墨絵、写真など。題材自由。作品は、はがき、封書、ファクス、メールで。作品は返却しません。あて先は①郵送〒860-8506、熊本市中央区世安町172、熊日「読者ひろば」係②ファクス 096(363)1268③Eメール hiroba@kumanichi.co.jp